

社会の諸課題の解決策を主体的に考える生徒が育つ社会科学習

名古屋市立伊勢山中学校教諭 大塚基央

I 研究のねらい

現代を生きる私たちは将来、少子高齢化やテクノロジーの進化、脱炭素化などの社会の急速な変化によって生じた様々な課題を解決しなければならない。このような時代において、直面した課題を解決するだけでは、よりよい社会をつくることは難しい。次にどのような課題が生まれ、その解決のために必要なことは何かを自ら考え、選択・判断していくことがこれからの時代を生きる子どもたちに求められている。

昨年度中学校第1学年地理的分野で、学習課題「イギリスは再びEUに加入すべきかどうか」を設定し、学習を行った。その際に次のような振り返りやまとめが見られた。

今回は「根拠を基に自分の考えをもつ」という目標で学習計画を立て、取り組みました。様々な資料から判断し、自分の考えをもつことができたので達成できたと思います。ただ、討論では発言できなかったため、次回の単元では「自分の考えを発信する」ことを目標に取り組みたいです。

EUは移民問題や加盟国の経済格差、社会保障など多くの問題を抱えているが、経済・教育・外交などに与える影響やヨーロッパは戦争が多くあった歴史から見ても再加入すべきである。また、イギリス国内でも、若者の半数以上が働き場所などの面から離脱に反対しているし、ポンドが下落しているため、国・国民どちらにとってもデメリットがある。そのため私は再加入すべきだと思います。

この生徒は、学習の振り返りで次回への自らの目標を主体的に考え、設定することができた。また、イギリスがEUに再加入すべきかどうかを考える際に、多面的・多角的に考察した上で選択・判断することができた。私の考える社会の諸課題の解決策を主体的に考える生徒とは、この生徒のように社会の諸課題の解決策を考えるために、自ら学び方を考えて学習を進め、多面的・多角的に考察した上で、より望ましい解決策を選択・判断していくことができる生徒である。昨年度の実践では、一部の生徒は上記のように、社会の諸課題の解決策を考えることができたが、解決策を考えることができなかった生徒もいた。それはなぜか考察すると、そもそも生徒自らが主体的に学びを考えて学習を進めておらず、それが要因で社会の諸課題の解決策を考えることができていないためであると考えられる。

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」では、「学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開し個々の家庭の経済事情などに左右されることなく、子どもたちに必要な力を育む」ことに触れており、本研究は学びに向かう力の育成に迫るという点において、意義があると考えられる。

II 研究の方法

1 研究の対象 名古屋市立伊勢山中学校 第2学年 40人

2 基本的な考え

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の小倉勝登氏は、主体的に学習を進める上で、問題解決的な学習過程の充実や単元で考えることが重要であると述べている。そこで本研究では、単元を「課題を捉える」段階、「考えを広げる」段階、「考えをまとめる」段階に設定し、それぞれの段階の学習を次のように進めるようにした【資料1】。

段階	主な学習活動
課題を捉える	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会的事象に出会い、学習課題を設定する。 ○ 自らの現状を把握し、調べることを明らかにする。 ○ 学習課題を解決するための学習計画を立てる。
考えを広げる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画した学習計画に沿ってそれぞれで取り組む。 ※ 学習計画はその都度修正しても良い。 ○ 討論のために、自分の考えをまとめる。 ○ 選択肢ごとに分かれて全体で討論をする。
考えをまとめる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 討論で出てきたことを踏まえて、学習課題に対する最終的な自分の考えをまとめる。 ○ 学習全体を振り返り、次の学習に生かしていくことを考える。

【資料1 基本的な学習の流れ】

(1) 課題を捉える段階

課題を捉える段階は、学習を進めるにあたり、必要な基本的知識を得る。そして、生徒が社会的事象に触れたときに生じた疑問や生徒が将来直面するであろう諸問題を踏まえた学習課題を捉え、学習課題に対する自らの考えを記述する。

次に、学習課題の解決に向けて、学習計画を作成する。生徒はまず、自分自身は何を理解していて、何を理解できていないのか、現状の学習状況を明らかにする。そして、学習すべきことを明確にした上で、「課題解決系口シート」を基に学習計画を立てる【資料2】。この「課題解決系口シート」は、生徒自身の興味・関心に応じてプリントを取捨選択し、取り組むことができるシートである。知識を増やすためのシートや思考ツールを使い、討論活動に向けた準備をするシート、資料から根拠や解釈を考えるシート等を複数枚用意し、生徒がこの「課題解決系口シート」を取捨選択し、学習課題の解決に向けた学習計画を個々に作成できるようにする。

(2) 考えを広げる段階

課題を捉える段階で作成した学習計画に沿って、個別学習や協働的な学習を進める。毎時間の授業の終わりにまとめと振り返りを記述する。まとめでは、学んだことや学習課題に対する考えの変化を記述する。振り返りでは、学習を振り返り、学習の進め方や今後の学習計画の修正などを記述していくようにする。このようなまとめや振り返り活動をすることで、生徒は自らの学習を調整しながら進めていく。そして、考えを広げる段階の最後に、他者と情報交換したり、意見交流したりしながら、それぞれの選択肢についての具体的な知識を習得し、社会的事象を多面的に考えるための討論を行う。

(3) 考えをまとめる段階

考えをまとめる段階では、多面的・多角的に選択肢を比較した上で、学習課題に対する解決策を選択・判断することをねらいとする。そのために「情報整理シート」を活用する【資料3】。「情報整理シート」は、表ツールを活用し、様々な立場や角度から整理ができるシートである。この「情報整理シート」を活用し、自ら学習したことや、討論で出てきた具体的な知識を立場ごとに分け、整理をしていく。その後、課題に対して最もふさわしい選択肢を判断し、単元レポートに記述することで、学習課題を多面的・多角的に考察できるようになると考える。

2学年 社会科学学習プリント 「日本の越地域 関東地方」
【考えを広げる段階】 調べ学習 2年 組 番 氏名 ()

課題解決シート①「日本の中心的谷地域」 表p.232～233

関東地方の自然環境の特色は、人々の生活や地域のつながりなどにどんな影響を与えているのか

1 日本最大の平野は()である。

Q なぜ日本最大の平野を形成したの??

A 名 ()川、()川、()川などの河川があるから

関東平野には火山から噴出した火山灰が積もった赤土でおおわれている
⇒ 火山灰なのでとても水はけが悪い!

Q この赤土でおおわれた土地はどのように使われている?

課題! 関東地方の沿岸部の気候の特徴をあげてみよう!

学習して考えたこと・気づいたこと・思ったことを書こう。

東京大都市圏の人口集中は避けるべきか

討論に向けて準備をしよう

主張 (選択肢)	↔	反対意見の予想
↓		
反対意見を踏まえ、その選択肢を選んだ理由		
新たに生まれた疑問		

【資料2 課題解決系口シート】

2学年 社会科学学習プリント 単元「●●●●」『視点確認シート』
2年 組 番 氏名 ()

学習課題

出てきたものを視点別に整理してこう

	選択A 「 」	選択B 「 」
●●の視点		
☆☆の視点		
▲▲の視点		
□□の視点		

整理できなかったもの

【資料3 情報整理シート】

3 「日本の諸地域 関東地方」「日本の諸地域 中部地方」における学習展開

本研究では、中学校2学年単元「日本の諸地域 関東地方」「日本の諸地域 中部地方」を取り上げ、実践に取り組む。

<p>単元と目標</p>	<p>単元「日本の諸地域 関東地方」(9時間)</p> <p>【実践のねらい】</p> <p>関東地方について、東京大都市圏の人口集中に着目して、人口集中する理由を地理的条件や空間的相互依存作用等から捉える。また、東京大都市圏の人口集中に対して、多面的・多角的に考察させ、よりよい関東地方の在り方について考えることができるようにする。</p>	<p>単元「日本の諸地域 中部地方」(9時間)</p> <p>【実践のねらい】</p> <p>中部地方の産業が発展している要因を地域の環境条件や他地域との結び付き等から捉える。また、リニア中央新幹線の開通によって、中部地方の産業が変化することを考察することで、今後の中部地方のよりよい発展について考えることができるようにする。</p>
<p>段階</p>	<p>主な学習活動</p>	
<p>課題を捉える</p>	<p>① 単元で学習すべき基本的知識を得る。</p> <p>② 日本の人口の約3分の1が関東地方に住んでいることを捉え、どうして関東地方に人口が集中するのかを位置や広がり、地域的特色などに着目して捉える。</p> <p>③ 学習課題を提示し、学習課題に対する予想を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【単元を貫く学習課題】 東京大都市圏の人口集中は避けるべきか？</p> <p>選択A「集中しても良い」</p> <p>選択B「避けるべき」</p> </div> <p>④ 自らの学習状況を把握した上で、課題解決系シートを活用し、学習課題を考えるための学習計画を立てる。 【検証場面1】</p>	<p>① 単元で学習すべき基本的知識を得る。</p> <p>② 中部地方の農業と工業の全国出荷量で上位の生産品を提示し、どうして中部地方は農業も工業も盛んなのかを位置や広がり、地域的特色などに着目して捉える。</p> <p>③ リニア中央新幹線が開通することを伝え、学習課題を提示し、学習課題に対する予想を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【単元を貫く学習課題】 リニア中央新幹線で、最も影響を受ける産業はどの産業だろう？</p> <p>選択A「第一次産業」</p> <p>選択B「第二次産業」</p> </div> <p>④ 自らの学習状況を把握した上で、課題解決系シートを活用し、学習課題を考えるための学習計画を立てる。 【検証場面1】</p>
<p>考えを広げる</p>	<p>⑤ 個々に立てた学習計画を基に、個別学習や協働的な学習を進めていく。毎時間の学習の成果を振り返り、学習課題の解決に向けて学習計画を見直し、次時の学習を修正する。</p> <p>⑥ 選択ごとで分かれてグループになり、分かったことや気付いたことを発表し合い、全体で討論をする。</p>	<p>⑤ 個々に立てた学習計画を基に、個別学習や協働的な学習を進めていく。毎時間の学習の成果を振り返り、学習課題の解決に向けて学習計画を見直し、次時の学習を修正する。</p> <p>⑥ 選択ごとで分かれてグループになり、分かったことや気付いたことを発表し合い、全体で討論をする。</p>
<p>考えをまとめる</p>	<p>⑦ 学習課題の解決策を考える上で、影響が大きい立場を学級で共有する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>予想される立場</p> <p>大都市圏の人々 他の地方の人々</p> <p>大都市圏の産業 他の地方の産業</p> </div>	<p>⑦ 学習課題の解決策を考える上で、影響が大きい立場を学級で共有する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>予想される立場</p> <p>中部地方の消費者 他の地方の消費者</p> <p>中部地方の労働者 他の地方の労働者</p> </div>

⑧ 自ら学習したことや、討論で明らかになった具体的な知識を立場ごとに、情報整理シートに分け、整理をする。 【検証場面2】	⑧ 自ら学習したことや、討論で明らかになった具体的な知識を立場ごとに、情報整理シートに整理をする。 【検証場面2】
⑨ 学習課題に対して、最もふさわしい選択肢を判断し、単元レポートに自分の考えを記述する。	⑨ 学習課題に対して、最もふさわしい選択肢を判断し、単元レポートに自分の考えを記述する。

4 記述分析による子どもの実態把握

単元「日本の諸地域 中国・四国地方」において、学習課題の解決に向けて学習計画を立てる。その際、どれだけの生徒が学習計画を立てることができているかを調査する。また、単元レポートの記述から、どれだけの生徒が、学習課題に対する自らの考えを多面的・多角的に選択、判断することができているかを調査する。

5 授業研究を通して明らかにしたいこと

- (1) 「課題を捉える」段階において、「課題解決系ロシート」を活用することは、学習計画を立てる上で有効か、生徒の学習計画からつかむ。
- (2) 「考えをまとめる」段階において、「情報整理シート」を活用することは、多面的・多角的に選択・判断する上で有効か、単元レポートの記述からつかむ。

Ⅲ 年間の研究計画

月	研究・調査・授業研究等
4	○ 実態調査を行う。
5	○ 研究主題の基本的な考え方を基に研究の方向性を定め、研究計画書を作成する。 ○ 第1次授業研究の計画書を作成し、検討する。また長期研修の日程を作成する。
6	○ 第1次授業研究「日本の諸地域 関東地方」 【検証点1】 「課題を捉える」段階において、「課題解決系ロシート」を活用することは、学習計画を立てる上で有効か、生徒の学習計画からつかむ。 【検証点2】 「考えをまとめる」段階において、「情報整理シート」を活用することは、多面的・多角的に選択・判断する上で有効か、単元レポートの記述からつかむ。
7	○ 第1次授業研究を分析し、基本的な考え方を修正する。 ○ 中間のまとめを作成し、今後の研究の方向性を明らかにする。
8	○ 長期研修（A・B日程）先進研究者を訪問し、研究を進める。 ・東京学芸大学附属竹早中学校教諭 内藤 圭太氏 ・広島大学 教授 草原 和博氏 ・九州大学 准教授 伊藤 崇達氏 ・敬愛大学 教授 市川 洋子氏 ○ 第2次授業研究の授業計画案を作成し、検討する。
9	○ 第2次授業研究「日本の諸地域 中部地方」
10	長期研修で学んだことを基に授業改善し、【検証点1】 【検証点2】を検証する。
11	○ 第1・2次授業研究の成果や課題、長期研修の成果や今後の研究の課題などを明らかにし、
12	最終のまとめを作成する
1	○ 「社会の諸課題の解決策を主体的に考える生徒が育つ社会科学習」について1年間の成果や
2	課題をまとめ、発表する。
3	○ 1年間の研究を反省し、今後の研究の方向付けをする。